

### 第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

#### 1. 教育学部附属山口小学校共用棟・教室棟B間渡り廊下屋根取設工事に伴う立会調査



図 57 調査区位置図

**調査地区** 白石構内山口小学校敷地中央空き地

**調査面積** 2.5㎡

**調査期間** 平成21年8月4日

**調査担当** 横山成己

**調査結果** 白石構内小学校敷地において、共用棟と教室棟B間に渡り廊下を取設する工事が計画された。開発予定地は小規模であったが、予定掘削深度が地山に達することが予測されたため、工事中の立会調査を実施することが平成21年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成21年5月19日開催メール審議)において決定された。掘削工事は小学校が夏期休暇となる8月4日に実施された。

工事掘削地点は校舎中庭に設けられた植物園の南西角部分に当たり(図57)、盛土により周囲の地盤に比して約0.6m高まっている。掘削後、土層断面に精査を加えた結果、層序は①0.5mの真砂土(表土・盛土)、②0.6mのガラ・川原石混じりの黒色土(造成土)、③0.1m以上の明黄褐色シルトであることが判明した(図58・写真135)。この明黄褐色シルトが地山となる。



写真 135 土層断面(西から)

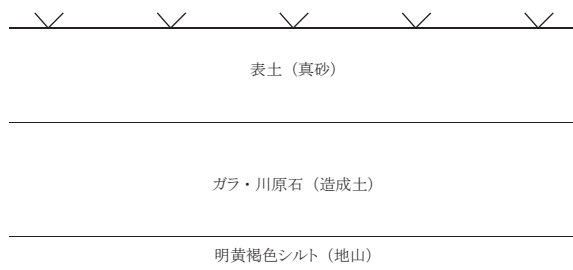


図 58 土層断面模式図 (S=1/40)

掘削域の地山上面に遺構を探したが、確認には至らなかった。直上に水平に造成土が置かれていることから、旧地形は大幅に削平を受けているものと推測される。

今回の立会調査では埋蔵文化財の遺存を確認できなかったものの、既往の調査成果等により、小学校敷地内には散発的に遺構・遺物が遺存していることが明らかとなっている。掘削規模の大小にかかわらず、継続的な埋蔵文化財保護対応が必要である。

## 2. 教育学部附属附属幼稚園園内中庭池改修整備工事に伴う立会調査

**調査地区** 白石構内幼稚園敷地北棟隅中庭

**調査面積** 50m<sup>2</sup>

**調査期間** 平成21年8月17日

**調査担当** 横山成己

**調査結果** 白石構内幼稚園敷地北東隅部に設置されている池が老朽化したことを受け、改修工事が計画された。工事予定地北西に近接する地点では、既往の調査で古墳時代の旧河川が確認されていることから、<sup>註1</sup>工事中に立会調査を実施することが平成21年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成21年5月19日開催メール審議)において決定された。掘削工事は幼稚園が夏期休暇となる8月17日に実施された。

工事は50m<sup>2</sup>と相応の範囲をもって実施されたが、その大部分は既設の池施設の取り壊しであり、新規に地下を掘削した範囲は、池南側に計画された柵設置箇所のみであった(図59)。

柵計画地における土層断面精査により確認された層序は、①0.3mの表土、②0.05mの造成土、③0.2mの黄色粘土、④0.1m以上の灰黄色砂礫である。また、③黄色粘土を切り込むかたちで、灰白色シルト層が検出された(図60・写真136)。土質から直ちにこれを遺構とは断定できないため、ここでは不明落ち込みとして報告しておく。

前述したように、山口小学校敷地同様、幼稚園敷地においても既往の調査により散発的に埋蔵文化財が確認されている。いずれも小規模な開発工事に伴う調査であるため、現在でも遺跡の性格を把握することが困難な状態にあるが、今後も継続的に掘削予定地の断面調査を実施することによって、埋蔵文化財の分布状況が明らかとなってくるものと思われる。

### 【註】

1) 河村吉行・古賀真木子(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水配水管布設に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』,山口



図 59 調査区位置図



写真 136 土層断面 (南から)

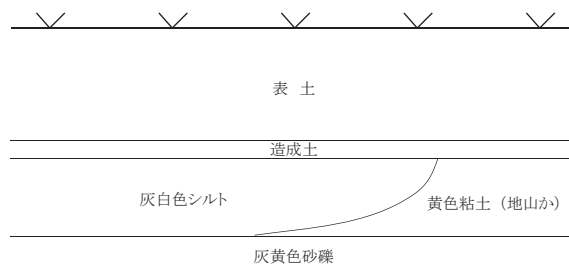


図 60 土層断面模式図 (S=1/20)

### 3. 教育学部附属山口中学校中庭庇取付工事に伴う立会調査

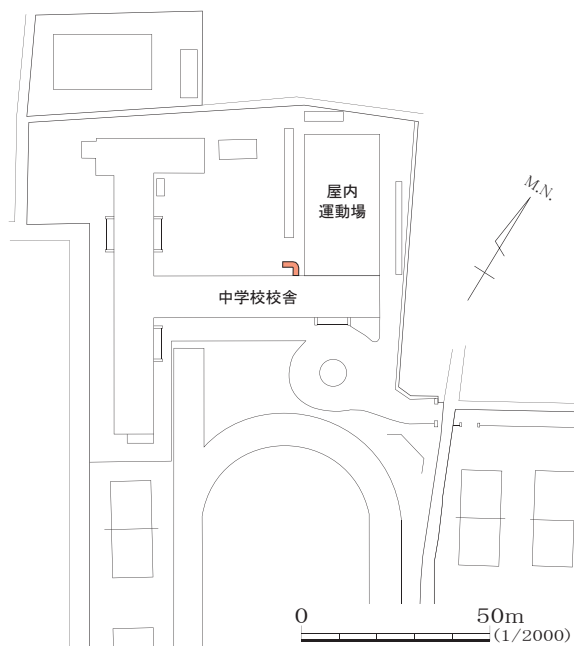


図 61 調査区位置図

**調査地区** 白石構内山口中学校中庭南東隅

**調査面積** 1.5㎡

**調査期間** 平成21年12月28日

**調査担当** 横山成己

**調査結果** 白石構内山口中学校中庭南東隅部において庇取設工事が計画された(図61)。工事計画地の南西側は、平成2年に実施された教育学部附属山口中学校汚水排水管布設工事に伴う事前・立会調査<sup>註1</sup>で調査済みになっている区域であったが(図74)、予定地北東側は未調査部分に当たるため、工事中に立会調査を実施することが平成21年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成21年4月22日開催)において決定された。掘削工事は中学校が冬期休暇となる12月28日に実施された。



写真 137 土層断面(東から)

庇部基礎埋設部分にて土層断面精査を行ったところ、基本層序は①0.02mのアスファルト、②0.18mの造成土、③0.1mの暗灰色粘土(造成土の可能性あり)、④0.2m以上の暗灰色砂礫であることが確認された(図62・写真137)。

最下層の暗灰色砂礫層は河川堆積土である可能性が高いが、掘削範囲が狭小であるため断定できない。

既往の調査により、山口中学校敷地内には複数の旧河川とともに溝状遺構の分布が確認されており、その埋土や遺物包含層から主として縄文時代から古墳時代の遺物が出土している。幼稚園・山口小学校敷地同様、いずれも小規模工事に伴う調査であることから、こちらも遺跡の性格が不明瞭な状況にあるため、継続的に地下の情報収集に努めなければならない。

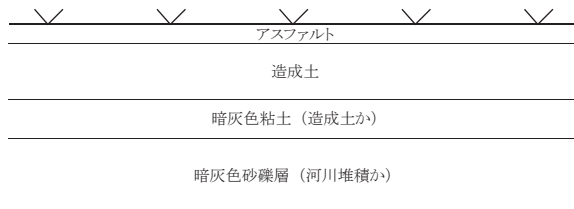


図 62 土層断面模式図 (S=1/20)

**【註】**

1) 古賀真木子(1992)「亀山構内教育学部附属山口中学校汚水配水管布設に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』,山口